

早春のチョウ

スプリング・エフェメラル <春の束の間だけ現れる動植物をよぶ>

Spring（春の）・Ephemeral（はかない） Ephemera（カゲロウ）

植物 …… カタクリ、アマナ、セツブンソウ、キクザキイチゲ

動物 …… ギフチョウ、コツバメ、ミヤマセセリ、ビロードツリアブ

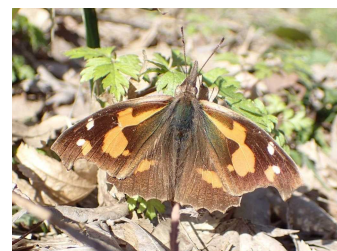
早春の日なたで見られるチョウの2タイプ

1. 成虫で越冬したもの

<早い時期にも暖かい日には飛び出す>

キタキチョウ(シロチョウ科) テングチョウ(テングチョウ科)

キタテハ、ヒオドシチョウ、ルリタテハ(タテハチョウ科)



テングチョウ

2. 蛹で越冬し、羽化したもの

コツバメ(3月末)

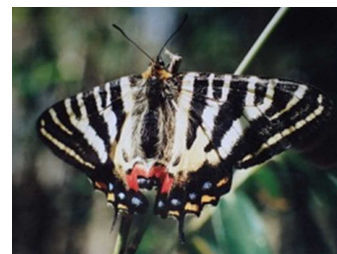


前翅が15mmくらいの小さなシジミチョウで、表面は濃い青色できれいです。年一回、春もっとも早く羽化します。

里山の明るい雑木林に生息し、敏速に飛び回ることによって気付きます。光の当たる葉の上にとまっていたオスが、時々パトロールしているからです。止まった時は、受光面を大きくするため、よく太陽に向けて体を倒しています。幼虫は、ツツジ類などの花やつぼみを食べ、特にアセビの花を好みます。打吹山では、長谷の八十八ヶ所や頂上でよく見られ、春の到来を感じるチョウです。

ギフチョウ(4月上旬)

ソメイヨシノの開花が、成虫の出現を告げる目安です。理由は、サクラの開花と同じように体内での変化が温度に支配され、一定の温度の積算量になることが必要だからです。



ミヤマセセリ(4月上中旬)

年1回、今の時期だけに成虫が見られます。飛翔は素早いのですが日なたの地面に静止することが多く、色彩も保護色となっています。コナラなどのナラ類を食べるため、長谷の八十八ヶ所や峠の展望台の近くで稀に見られます。

—春の昆虫は天気の良い日だけに見ることができる—

活動と体温 体温が下がると極端に活動が鈍る

<対策> (1) 春の陽光で温める ① 太陽を背にして大きく翅を開く

② 翅を閉じたまま陽が直角に当たるように体を傾ける

(2) 体全体に長い毛を生やしている

ハエの場合：飛行 15～10℃ 歩行 5～10℃ 停止 5℃以下